

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401540		
法人名	有限会社 北邦		
事業所名	グループホームさらさの杜(ユニット1 おおる)		
所在地	北海道函館市安浦町364番地2		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	令和5年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosoCd=0171401540-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中、地域とのつながりやご家族の面会等については制限しており、気分転換の少ない生活が強いられていますが、ご家族の皆様方のご協力等において当施設の利用者の皆さんについてはコロナに感染無く経過できている事は何事にも代えがたい地域の皆様方やご家族の皆様方の暖かご協力のお陰と心より感謝申し上げます。施設の呼びかけにご家族の皆様方、地域の皆様方のご協力の姿勢が一致団結できている事はとても誇りに思えることと考えております。今後に於いても、様々な感染症の予防対策を徹底し利用者の皆様の健康をお守りしたいと考えております。生活スタイルが大きく変わった中でも『楽しい我が家』をスローガンに掲げ利用者の皆さんと楽しく笑顔の耐えない生活をしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と海に囲まれ、川も近くにある自然豊かな恵まれた環境の中に、広い敷地を有し、2ユニットの平屋建て事業所を設立して10年を迎えている。職員は、利用者が日々の暮らしの中で、パジャマから生活着に着替え、ひげをそるなど身だしなみを整えることに、新たな日を迎えその人らしく過ごす気持ちに切り替わる大切な支援をしている。入居者が、職員の見守りと指導により、事業所の長い廊下の歩行や健康維持器具を使用した日々の訓練で、介護度を大きく改善し、家族と話し合いの上で独居の地域生活に戻ることに関わり、地域住民に理解と日々の見守りを依頼している。食事の準備では、職員と一緒に芋の皮むき・もやしの根取り、食器洗い・拭き・片付けなど、分担が自然に決まって利用者各々の能力を活かし、一緒に食事を楽しみ、会話の中から利用者の思いや意向をくみ取っている。事業所の「さらさ通信」は、肖像権の使用許可を得て掲載する利用者の写真選びやコメント作成まで全職員で取り組み、活動状況と介護の様子を発信している。施設長と職員間との信頼関係は厚く、気付きやアイデアを運営に繋げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールやユニット内に掲示しており、常に意識して実践につなげられるようにしている。	理念は、ホールなどの目に付く場所に掲示しているほか、ユニット会議や業務会議で説明し話し合うなど、理解と共有に取り組んでいる。事業所設立から10年を迎え、当時の理念作成の思いなどを振り返り、職員には更なる目標を目指し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会のお祭りへの参加、ボランティアの受入を行っている。近隣の学校のインターシップ等を受入しており交流を図れている(現在はコロナの為お休みしている)	2町内会には、情報紙「さらさの杜」を配布している。小・中・高校等より福祉学習見学の要請を紙上での質問と回答にとどめ、社会福祉協議会からのボランティア派遣要請についてもコロナ感染防止のため自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で運営推進会議やボランティア等は控えている。コロナ前は、会議やボランティア受入の際に説明を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はコロナの影響で自粛しており、資料については関係者各位へ送付し、後日電話で意見等を確認している。	5類移行後も書面会議にて年6回奇数月に、利用者の生活写真を掲載した会議資料を配布している。電話での説明と意見や要望などを把握した内容を記した会議録をその都度作成し配布している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時などで支所を訪問した際に情報提供したり、地域振興課を訪問し担当職員の協力を得る等で、協力関係を築いています。社会福祉協議会主催の地域懇話会などには感染対策を十分に行い参加しています。	市担当者とは5類移行後の運営推進会議の開催方法について話し合ったほか、職員研修案内にもコロナ感染状況を確認して参加している。制度改正資料配信については、会議等で説明し回覧で対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて、研修会で学習し、身体拘束を行わない取組を行っている。行動の抑制に繋がらないような声かけを心がけている。夜間は防犯上玄関は施錠している。	職員には身体拘束防止委員会等で拘束と虐待について、一つひとつ事例を挙げて、なぜ悪いかを説明し、絶対しない、させないように取り組んでいる。職員間でも速やかに注意し合う関係ができています。テレビのニュースや新聞報道はコピーして話し合い、身体拘束と虐待のない介護支援を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けて研修会を開き、虐待とは何かを学び理解し、虐待のない支援に務めている。			

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の中で、権利擁護や成年後見人について学び、対象者がいた場合は活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際個々に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス・面会時や電話等で意向を聞いたり、意見が出たら上司に報告している。	家族には、さらさ通信と請求書送付時に利用者の近況を一文に添えて送付している。5類移行後、玄関ホールを家族との面会の場として20分程度開放している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・業務会議・職員会議等で意見等を聞き、分からない事・不安な事があった場合には話し合いし解決するよう務めている。	職員とは介護の不安や意見、提案などについて常時話し合い、事業所対応については方針を伝え、解決するよう取り組んでいる。毎年度業務に対する5段階の自己評価を実施し、職員のレベルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を把握して、資格者への優遇、労働時間の調節等を行い働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の努力や実績等を把握して、資格者への優遇、労働時間の調節等を行い働きやすい環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナもあり、外部研修は中々難しいため、インターネット等を活用し技術やサービスの質の向上に努めている。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接時、困っている事や要望を確認し、安心して入所できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、心配や不安なこと、要望を聞き、家族と一緒に検討しながらより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接時、本人・家族を交えたカンファレンスにて、意向を確認し何を必要としているかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢者という見方ではなく、人生の先輩である利用者から学ぶ姿勢を持ち、生活を共に支え合う関係を築けるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々の状態を電話等で報告し、家族と利用者がともに楽しく過ごせるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人等の協力を頂き、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者は近隣住民が7割を占めており、ドライブで自宅に立ち寄り、家族との触れ合いのほか、手紙や年賀状が相手に届いていることの確認など馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域の利用者が多く、互いに状況を報告し合う等、ホールで集い合えるような雰囲気作りや声がけを行い、孤立しないよう支援している。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に会った時には気軽に挨拶している。相談ごとがあったら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、本人の意見を聞き思いに添うよう努め、困難な場合は職員がリードし、ヒントを提供する等し、本人の意向を確認するように努めている。	利用者の希望や意向を把握している。編み物や塗り絵、洗濯物をたたむ作業を一緒に行うなど、意欲の高揚に繋がるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より情報収集し、利用者のこれまでの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、記録や申し送りノートを活用し、利用者のできること・できないことを確認し合い、心身の状況の把握に努め、できる事を活かした支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランについては、家族とカンファレンスを開いて、ユニット会議等で出た意見を参考に安心した生活が送れるようプランを作成している。	プラン作成時には、生活状況を記録した申し送りノートやユニット会議での一人ひとりの対応等を家族に連絡して意向を確認している。さらに業務会議で話し合い利用者の最も適したプランの作成に取り組み、利用者・家族の承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子や変かを細かく記録に残し、申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を確認し、又、その時々状況を把握し必要に応じた支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期受診の際顔なじみの方との会話や、避難訓練時は近隣の消防署の方の協力も得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況の変化時は常に主治医に報告し、指示を得られる関係を確率するなど、適切な医療を受けられるよう努めている。	町内2カ所の医療機関がかかりつけ医で、医師・看護師による夜間を含めた24時間対応である。電話で指示を仰げる信頼関係を築くなど、適切な医療受診を支援している。	

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況に変化が見られた場合には、主治医・看護師に報告し、指示を得ており、適切な医療を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供している。状況報告や相談をする等病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、施設の看取り指針について十分に説明し、理解を得ている。主治医にも家族の意向を報告しチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期介護の対応について、職員と検討し、介護職員配置の現状では限界があり、法人とも協議して老衰による看取り以外は、かかりつけ医の指示によることとしている。利用者と家族に対し取り組み方針を書面により説明して、記名・押印を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、消防署の協力も得て、講習を行い実践力を身に付けている。又、研修会で勉強し全職員が習得できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については、施設内研修会を定期的に実施、避難訓練も毎年実施できており、万が一の場合は全職員が対応できるよう努めている。	6月に消防署立会のもとに消火と避難訓練を実施している。11月に2回目の訓練実施を予定している。風水害による土砂災害避難訓練を実施し、徒歩で20分、車で5分の公共施設へ避難している。	事業所は現在、風水害による土砂災害の避難場所として、直近に建設された中学校への変更を検討している。これにより、利用者の負担が大きく軽減できるので、消防署、防災担当課とも協議して実現することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を十分尊重し声かけや対応を行い、プライバシーを損ねることが無いよう、その人らしい生活ができるよう支援している。	利用者の生活歴等を把握し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない配慮によって、安心して過ごせるよう生活支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を常に確認し、自己決定を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、その人にあつた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好み等を把握し、好きな服を選んで頂き、本人の希望を確認する等でその人らしさを尊重した支援に努めている。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえなど利用者ができる所は協力し合い、楽しみながら行うよう支援している。	四つの基本メニューを決めているが、家族や地域からの食材提供や、冷蔵庫にある食材の状況、また、利用者からの希望を満たすなど変化にとんだメニュー作りに取り組んでいる。調理では利用者のできることを活かして一緒に取り組み楽しい食事に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取を記録し、状況も確認している。必要に応じ介助で栄養や水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声がけや誘導し、必要に応じて介助し口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し早めの声がけや誘導で自立に向けた排泄を心がけている。	利用者の羞恥心などに気を配り、排泄の自立に導くため、付添いの必要性や利用者それぞれの出来ることを確認して、出来ないことをさりげなく支援し、トイレ排泄に繋げ、排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やマッサージ、食物繊維のある食事提供や水分調節等で便秘予防に努めている。必要に応じて主治医に報告し下剤調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や声がけし実施している。利用者ひとり一人に合わせた支援を行っている。	週2回の入浴を基本に曜日や時間に拘らず、入浴記録を基に声掛けし、沐浴剤や好む温度も記録している。ラジカセからの歌を歌いながら楽しい入浴に繋げている。声掛けに叶わないときは、清拭をして翌日タイミングを見て入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的リネンの交換を行い気持ちよく休息して頂けるよう、又気温・室温に合わせた寝具調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の服薬を確認し、スタッフ同士でも確認し合い誤薬の無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる所(食器拭き・食事の下ごしらえ・洗濯たたみやカーテンの開け閉め等)は、スタッフと一緒に等し、楽しみを持って過ごせるよう支援している。		

グループホームさらさの杜(ユニット1 おおるり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で外出支援が困難な状況となっているが、天候の良い日は施設周辺を散歩したり、季節に合わせてドライブに出かけたりし気分転換に努めている。	ドライブで、大沼公園や函館市街地の桜ヶ丘通へ観桜に出かけている。近くの道の駅で、利用者の好物であるソフトクリームを車内で喫食している。気候状況を見ながら広い敷地内を職員と一緒に散歩し、四季を感じ取るなど気分転換を図る支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる利用者にはお小遣い程度の金額を管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけ、相手が出たら本人に渡す等で電話のできる環境に努めている。手紙については、本人に書いて頂き利用者の思いが相手に伝わるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれるよう衣替えをしたり、自由にくつろげる空間を作り、ホールにソファ等を用意している。	今年の異常気象に対応するため、網戸を増やし、扇風機を使用して室内温度を下げる工夫に取り組んでいる。リビング内では、季節感漂う手作りの装飾などを飾り、編み物や塗り絵、休息など利用者の中心スペースとなっている。音や採光、湿度などにも配慮して居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースは各ユニットホールや玄関ホールで過ごし各自くつろげる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持参したり、迷うことが無く居心地良く過ごせるように心がけている。	普段から馴染んでいる衣装ケースやテレビなどの持ち込みを、利用者と家族に進めている。見慣れた写真や位牌、仏壇のほか、日々使用した茶わん、湯飲みや箸などを持参することを勧め、以前と変わりなく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや廊下・浴室等に手すりを設置。スタップ付き添いサポートし生活が送れるよう工夫している。		